

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2590100059		
法人名	ウェルフェア株式会社		
事業所名	グループホームみちくさ		
所在地	滋賀県大津市稲津1丁目3-9		
自己評価作成日	平成25年2月14日	評価結果市町村受理日	平成25年3月12日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓ このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク滋賀福祉調査センター		
所在地	滋賀県大津市和邇中浜432番地 平和堂和邇店2階		
訪問調査日	平成25年3月5日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者が「私らしく暮らす」事を常に考え、一人ひとりにとって何が大切なのか、何が「私らしい」かを考えて取り組んでいます。

利用者の個別の外出を大切に、ご本人が希望されている外出先や思い出の場所をご本人と一緒に計画立てて個別外出の支援を行っています。

ご本人・家族の要望に沿った看取りケアまで実施しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

瀬田川に沿った自然環境豊かな住宅地にある。職員は利用者一人ひとりを徹底して見て、対応する習慣を身に着けている。暮らし、医療、趣味、外出、交友、看取りなどすべての面で本人本位で支援をしている。毎月1回生活、食事、排泄など7項目に亘って家族に報告する手紙を出している。運営推進会議が始まる以前から続いている地域住民と職員で構成する「稲津1丁目をよくする会」で3～4ヶ月毎に事業所と地域の課題を議論している。当番の職員が利用者と毎日午前と午後買い物に行き、新鮮な食材で家庭的な料理を手作りしている。年末にはおせちも皆で協力して作った。利用者は玄関先の掃除、食事の準備片付け、洗濯ものの始末などできる事を分担し、歌、習字、お抹茶などを楽しんでいる。「ここは天国や」など満足の言葉を惜しまない。職員もよい職場であると言っている。

. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

ユニット名:1F

〔セル内の改行は、(Alt+) + (Enter+)です。〕

自己 外部	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	『自分らしく、いきいきと、健康で笑いながら楽しくくらしたい』の事業所理念を掲げて会議等で共有して実践につなげている。	管理者は理念の実現には地域との連携が不可欠である、という信念で運営し、職員は主旨を理解して個別のケアを徹底してる。理念を玄関に掲示し、「みちくさ通信」の冒頭にも掲載している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会の加入や琵琶湖一斉清掃への参加、施設行事にも地域の方に声を掛けて参加していただき、日常的な交流を図っている。	利用者は職員と共に清掃や地域の祭りに参加し、地域の消防訓練に職員が参加している。事業所の夏祭りやクリスマス会には子ども含めて40～50人が参加している。チビコダンスや民謡のボランティアに来て貰っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域住民の方「よくする会」との会合や地域の中学生の職場体験学習の受入を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では事業所の職員の体制や運営の内容を報告し、具体的な助言をいただき、サービスの向上に活かしている。	地域代表、家族代表、地域包括支援センター職員と管理者で構成し隔月に開催している。消防署員が参加した事もあった。夏祭りの反省で猛暑の時期を外す提案や夜の花火見物の注意事項などを受けて改善の取り組みをしている。	会議では目標達成計画の進捗を議題の1つにして、参加者にモニター役を担って貰って欲しい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の認知症事業相談協力事業所として登録して連絡を取り合い、協力関係を築くように取り組んでいる。	介護保険課や健康長寿課には年に十数回訪問し、電話やメールのやり取りは頻繁にある。強度の妄想対応の専門的な助言を貰った。管理者が社会福祉審議会高齢者部門の委員として貢献している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	高齢者虐待や身体拘束の勉強会を事業所内で開催し、施設全体で徹底して身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。	玄関の施錠を夜間のみしている。家族の了解を得て1人の利用者のベッド下にセンサーマットを置いているが、行動を制限するものではない。身体拘束やプライバシーに関する研修を全員を対象に年1回行ない、最近は職員自身が講師をするようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待や身体拘束の勉強会を事業所内で開催している。利用者への声の掛け方等にも注意して、ご本人にとって不快にならないように心がけている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を活用されている利用者もおられ、その担当者とコミュニケーションを図り、学ぶ機会を持っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用前の施設見学時から説明を行い、利用開始時に重要事項説明書や契約書により説明し、質問等があれば、利用開始後も随時返答を行い、理解して頂くように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の面会時に利用者の日々の様子をお伝えし、交流を深めてご家族の話を伺うようにしている。利用者には日常的な会話のなかから、想いや意見を伝えられるようにして頂いている。	面会訪問時には必ず職員が状況を説明し意見要望を聞くようにしている。運営推進会議での提案もある。食事を高齢者向きに工夫して欲しいなどの要望を取り入れている。苦情処理ファイルはあるが最近事例がない。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各ユニットで行われる定例会議には管理者も参加したうえで意見交換を行っている。又、法人内での管理者会議では施設での行事や問題等の報告も行っている。	日頃から職員は管理者に意見が言いやすい。月1回のユニット会議で全員で提案を検討している。介護記録の書式を全面的に作り替えたのは職員の提言によるもので記録しやすく見やすくなった。行事の企画などは職員のお提案が多い、	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業年数による定期昇給や役職による手当の支給、退職金制度の導入等、職員に対する労働面での整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	滋賀県淡海グループホーム協議会の研修の参加や講演会への参加や認知症介護実践者研修に参加したりとスキルアップに努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	滋賀県淡海グループホーム協議会の会員でもあり、職員研修や情報交換を行っている。近隣GHとの相互訪問や合同の研修も実施している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○ 初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用開始前の面接にて困っている事柄や解決したい事柄等をしっかりと傾聴し、関係づくりに努めている。		
16		○ 初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス利用の検討の段階で不安や介護の疲労感や悩みを聞き、受け止めるように努めている。		
17		○ 初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	現時点で、ご本人の困っておられる事、家族が思い悩んでいる事を傾聴し、そのうえで当事業所で支援可能か否かをお伝えし、判断をしていただいている。		
18		○ 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	その人・その状況において、出来る事を行って頂いたり、職員と一緒に頑張って頂いている。		
19		○ 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の状況・状態等家族との連絡・連携は行えて、情報の共有も出来ていおり、共に支えていく関係を築けている。		
20	(8)	○ 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人の話聞き、馴染みのものや場所は把握出来ている。出来る限りで馴染み場所への外出も行っている。	本人や家族から馴染みの人、場所、物の情報を得ている。個別外出の時に参考にしている。職員と2人で居酒屋に行くことも特別な事ではない。たまに友人の訪問があるが家族が知らない情報を得られるので職員は歓迎している。	
21		○ 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者が孤立せず、楽しく過ごして頂けるように努めているが、互いに話し合う事が難しく、支えあうような関係には、まだ至っていないと感じる。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	看取りまで実施しているため、住み替えのケースはあまりないが、必要に応じて関係を継続している。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個々の希望を聞いたり、希望を上手に言えない方は利用者本位に考え、その人のペースで生活してもらるように努めている。	半数は言葉で意思を伝えることができるが、そうでない人は職員が寄り添い表情やしぐさで推察し確認している。入浴や夜間に2人きりになる機会を大切にしている。情報は日報や申送りのミーティングで共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個々にファイルにまとめて、把握出来るように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のバイタルチェック等、健康状態の把握に努めて、職員間での共有も行っている。一日の過ごし方も取り決め等はなく、自由に過ごして頂いている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3ヵ月に一度、ケアの在り方について話し合いを行い、介護計画の見直しを行っている。本人の思いや希望を尊重し、日々の関わりの気付きや要望を反映させてプランを作成している。	本人、家族、医師などの意見を基に計画担当者が作成する。一人ひとりが普通に暮らす支援に力を入れた計画にしている。職員の情報に基づくモニタリングにより3ヶ月毎に見直し、事後に家族へ説明し了解を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	気づきを発見しながらも、記入の漏れ等があり、出来ていない事もあるが、職員間での共有や見直しは行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者や家族の希望・要望に出来る限り応じるべく支援を行っている。利用者の居室で宿泊していただくことも可能である。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民謡のボランティアの来訪があり、利用者の楽しみのひとつになっている。イベント時には支所から机や椅子をお借りしながら準備を行い、暮らしを楽しむ事ができるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関の主治医とは連携が図れている。希望される方には認知症専門医に定期的に受診されている方もおられる。希望により歯科の往診も受ける事ができる。	家族の希望で入居時に全員がかかりつけ医を協力医のくろづ外科に変更している。家族が付き添う場合もあるが、状況を説明できるのは職員なので必ず付き添う。結果の連絡は直後に電話で行なっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員間で情報を共有し、利用者の健康状態に関する新しい情報を看護師に伝えて相談をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院された場合、病院関係者を含めたカンファレンスを必要時に設けている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時に重度化の対応の指針を家族に説明している。重度化した際に医師と家族、施設で話し合いの場を設けて、今後の対応について協議している。その後は医師と家族とともに情報を共有するようにしている。	契約時に「入居者様事前ご意向書」に希望を書き込んだ文書を買っている。状態の変化と共に話し合いをして、重度化した時に家族、医師、管理者で話し合い、その内容を詳しく記録した文書に本人と家族の確認印を買っている。最近では1月に看取りをした。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルに沿って行動するようにしている。又、他事業所と共同にて救命救急の講習を受講している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の避難訓練を行っている。災害時に備え、備蓄品の準備もしている。	地震にも対応する減災マニュアルを作っている。火災報知器と消防署への自動通報装置、スプリンクラーなどを備えている。訓練時には利用者の避難のほか、消防からはそれら装置の機能や操作の指導も受けている。	災害時に近隣の支援が得られる体制を作してほしい。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の尊重とプライバシーの配慮は行っているが、丁寧な言葉掛けが常時に行えてはいない。不適切な言葉掛けがあった際には職員間で注意し合える関係を築いている最中である。	利用者を人生の先輩として尊敬している。態度や言葉遣いをその人その人に合わせて親しみと丁寧さのバランスに気を配っている。不適切と感じたらすぐに注意し合っている。書類は事務室で保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	なるべくご本人のペースで自己決定して頂けるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々のペースを大切に支援しているが、職員が業務に追われて職員のペースになってしまっている時もある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床・入床時や外出時等の更衣の際に服を選んで頂けるように努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者個々の力量に考慮し、準備や片づけ等出来る事は行って頂いている。	利用者も献立を考え買い物に同行する。下拵え、味見、盛り付け、配膳、片付けなどを半数近くが手伝う。季節の物や新鮮な刺身などが食卓に並ぶことも多い。職員全員が同じものを食べるが時間は少しずれている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の体調・病気等バランスを考慮した食事の提供は出来ているが、細かいカロリーや塩分の計算は出来ていない。水分の摂取に関しては積極的に摂って頂けるように支援と記録を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアをご自身で行って頂いたり、介助にて口腔ケアを行っている。週に1回、訪問歯科を利用している方もおられる。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を用いて把握に努めている。終日紙パンツの使用の利用者が日中は布パンツで過ごせるようになった例もある。	失敗する場合は、言えない、立てない、間に合わないなど個々に異なるのでその原因を一人ひとり検討している。最近入居の2名は適時の声かけ誘導により3ヶ月でできなかったトイレ排泄ができるようになった。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品の積極的な提供や排便を促すお茶の提供を行い、個々に応じた予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴チェック表を作成し、バランス良く入浴して頂けるようにし、ご希望があれば出来る限り入って頂けるように支援している。	毎日午前も午後も可能で希望を優先して入っている。最長でも3日1回が基本で、いやがる場合も今入りたくないだけなので、時間や担当者を変えれば入って貰える。重度の人には一時的に2人介助も行う。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	消灯時間は設けておらず、個々の生活習慣に合わせて休息していただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤師より取り扱いの説明を受けて、職員間で情報の共有に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者個々の希望や状態に配慮し、毎日ではないが、好きな事や興味のある事柄を行って頂けるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的に買い物や散歩に出かけている。個人の規模を伺いながら、個別での外出を計画し、出掛けられるように支援している。	散歩や買い物に半数以上の方が日常的に出掛けている。足が弱い場合も車椅子を押して歩き、疲れたら乗ようとしている。揃って出かける行事以外は全て一人ひとりの希望で付き添い、そのため職員1人がいない状態でも事業所内で対応できる体制を作っている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	普段は事務所で管理し、必要や希望に応じて購入して頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は希望に応じてかけて頂いたり、取次を行っている。年賀状は出来る限り書いて頂くように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温度・湿度に考慮しながら居心地良く過ごして頂けるように配慮している。	1階2階は同じ造りで長い居間兼食堂の両側に居室を配している。入口付近の調理場から全体が見渡せる。テレビの前のソファはゆったりと寛ぐ場で好きな利用者が多い。壁に利用者の習字など作品を飾っている。居間、玄関、トイレ、浴室など毎日掃除している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間にはテーブル席・ソファ2箇所が配置され、思い思いに過ごして頂けるように工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	火器類以外は持込みものの制限はなく、入居以前からの愛用物を持ってきて頂く等、居心地良く過ごして頂けるように支援している。	利用者はベッドを含め家具をを持ち込み、好みの飾りつけをしている。家族の写真、お茶の道具、高級ステレオなど各室は異なった雰囲気です。それぞれ自分の居室を作っている。自分で掃除をする利用者もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	動線上に不必要なものを置かない様にして、安全に生活できるように支援している。		

自己評価および外部評価結果

ユニット名:2F

〔セル内の改行は、(Alt+Enter)です。〕

自己 外部	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	『自分らしく、いきいきと、健康で笑いながら楽しくくらしたい』の事業所理念を掲げて会議等で共有して実践につなげている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会の加入や琵琶湖一斉清掃への参加、施設行事にも地域の方に声を掛けて参加していただき、日常的な交流を図っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域住民の方「よくする会」との会合や地域の中学生の職場体験学習の受入を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では事業所の職員の体制や運営の内容を報告し、具体的な助言をいただき、サービスの向上に活かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の認知症事業相談協力事業所として登録して連絡を取り合い、協力関係を築くように取り組んでいる。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	高齢者虐待や身体拘束の勉強会を事業所内で開催し、施設全体で徹底して身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待や身体拘束の勉強会を事業所内で開催している。利用者への声の掛け方等にも注意して、ご本人にとって不快にならないように心がけている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を活用されている利用者もおられ、その担当者とコミュニケーションを図り、学ぶ機会を持っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用前の施設見学時から説明を行い、利用開始時に重要事項説明書や契約書により説明し、質問等があれば、利用開始後も随時返答を行い、理解して頂くように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の面会時に利用者の日々の様子をお伝えし、交流を深めてご家族の話を伺うようにしている。利用者には日常的な会話のなかから、想いや意見を伝えられるようにして頂いている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各ユニットで行われる定例会議には管理者も参加したうえで意見交換を行っている。又、法人内での管理者会議では施設での行事や問題等の報告も行っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境条件の整備に努めている	就業年数による定期昇給や役職による手当の支給、退職金制度の導入等、職員に対する労働面での整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	滋賀県淡海グループホーム協議会の研修の参加や講演会への参加や認知症介護実践者研修に参加したりとスキルアップに努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	滋賀県淡海グループホーム協議会の会員でもあり、職員研修や情報交換を行っている。近隣GHとの相互訪問や合同の研修も実施している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○ 初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用開始前の面接にて困っている事柄や解決したい事柄等をしっかりと傾聴し、関係づくりに努めている。		
16		○ 初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス利用の検討の段階で不安や介護の疲労感や悩みを聞き、受け止めるように努めている。		
17		○ 初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	現時点で、ご本人の困っておられる事、家族が思い悩んでいる事を傾聴し、そのうえで当事業所で支援可能か否かをお伝えし、判断をしていただいている。		
18		○ 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人が出来る又は出来そうな家事についてはご本人が出来にくい部分について支援し、ご本人がなるべく主体的に取り組めるよう関係を築いている。		
19		○ 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月に1度、手紙にて生活状況を報告している。家族の面会や電話があった時には意見や意向を伺っている。又、必要に応じて職員から電話させていただき、共にご本人を支える関係を築いている。		
20	(8)	○ 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入所前からの馴染みの場所への外出支援を続けている。個人ファイルに記録している情報を職員が共有し、対話を通じて関係が途切れない様に日々支援に努めている。		
21		○ 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係の把握に努め、孤立しそうな時や互いに衝突しそうな時は職員が介入している。利用者同士の共通の話題を提供したり、様子をみながら職員が関わり、支援をしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	看取りまで実施しているため、住み替えのケースはあまりないが、必要に応じて関係を継続している。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	対話を通じてご本人の想いを伺い記録に残し、検討している。困難な場合はしぐさや表情をもとに職員全体で検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人、家族に伺った事を項目毎に記録に残し、必要に応じて職員が把握できるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の個々の出来る事に目を向けて、有する力の現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人や家族の思いや意向をもとに、月々の会議で検討し、3カ月に一度は介護計画の見直しを行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録した事を日々、職員間が共有・検討できる時間を朝、夕と設け実践、介護計画の見直しに役立てている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者や家族の希望・要望に出来る限り応じるべく支援を行っている。利用者の居室で宿泊していただくことも可能である。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民謡のボランティアの来訪があり、利用者の楽しみのひとつになっている。イベント時には支所から机や椅子をお借りしながら準備を行い、暮らしを楽しむ事ができるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医から隔週に一度の往診があり、希望者には週に一度の歯科往診がある。ご本人の体調変化や必要に応じてかかりつけ医に24時間連絡し、指示を仰げる体制になっている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師が週に一度来て健康管理の相談行っている。又、必要に応じて電話連絡を行い、受診や看護について指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院された場合、病院関係者を含めたカンファレンスを必要時に設けている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時に重度化の対応の指針を家族に説明している。重度化した際に医師と家族、施設で話し合いの場を設けて、今後の対応について協議している。その後は医師と家族とともに情報を共有するようにしている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルに沿って行動するようにしている。又、他事業所と共同にて救命救急の講習を受講している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の避難訓練を行っている。災害時に備え、備蓄品の準備もしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーを尊重し、その人に応じた声かけを行い、言葉遣いに注意している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人が自己決定しやすいよう、ご本人の意見や話を受容・共感し、意見の確認を行い支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人の興味、こだわり・生活リズムを大切に、日々の実践につなげて支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人が選んだ服を着ていただいたり、外出時は化粧をされたりと、おしゃれができるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎食の献立は利用者とも一緒に考え、食材の買い物に同行していただいている。調理や味見、片づけに参加して頂いている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の健康状態をもとに食事量や形態・水分量に配慮し、記録して支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、必要に応じて声かけを行い口腔ケアを行っている。洗面所で口腔ケアを行う事が難しい方にはイソジンでうがいを行って頂いている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄状況を記録に残し、必要に応じてトイレ誘導を行っている。ご本人と話し合い、紙パンツから布パンツへの変更の支援も行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	状態に応じて野菜ジュース・牛乳等を提供し、食事を通じて予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ご本人の希望を取り入れつつ、入浴の間隔が空かない様に支援している。入浴剤も使用して楽しみを持てるように支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活習慣に基づき、居室環境を整え、眠って頂きやすいよう工夫をしている。不眠時は寄り添い、安心していただけるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤師より取り扱いの説明を受けて、職員間で情報の共有に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事を分担して行ってもらったり、動植物の世話をさせていただいたり、カラオケ等のレクレーションに参加してもらったり、ここによる支援は多岐にわたっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日々、買い物や散歩と一緒に出掛けている。ご本人の希望に沿って個々の外出をご本人と話し合いながら実践している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金庫で管理している個人の財布を使用時にお渡しして、買い物を楽しんで頂いている。ご自身で財布を管理されている方もおられる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の相手方の意向に応じ、ご本人と会話される事もある。年賀状等の手紙のやり取りを勧め希望に応じてお手伝いをしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温度・湿度に考慮しながら居心地良く過ごして頂けるように配慮している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間にはテーブル席・ソファ2箇所が配置され、思い思いに過ごして頂けるように工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人の馴染みのものを家族に伺いながら持ってきて頂いています。家族と相談しながら衣替え等も行っている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	動線上に不必要なものを置かない様にして、安全に生活できるように支援している。		

2 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
 目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	4	外部評価における目標達成計画の進捗確認を 運営推進会議で報告出来ていない。	運営推進会議で参加者に外部評価におけ る目標達成計画の進捗を確認していただ き、モニター役になっていただく。	運営推進会議で目標達成計画の進捗状況を 議題に盛り込み、確認していただく。	12ヶ月
2	35	避難訓練に近隣住民の参加の呼びかけが出来 ていない。	災害時に近隣から支援が得られる体制作り	避難訓練開催時に近隣住民に参加を呼び掛 け、グループホームの避難状況を知っていただ き、災害時等への協力の呼びかけを行う。	12ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目の№を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。